

卒業論文

紅茶と意識化  
～インド紅茶の考察～

上智大学外国語学部英語学科  
国際関係副専攻 下川雅嗣助教授

A0251353 鈴木沙波

2003年 12月

## 目次

はじめに

### 第一章 紅茶農園での滞在

第一節 ナムリン紅茶農園までの道程

第二節 紅茶農園で取り組んだこと

第三節 紅茶農園で感じたこと

### 第二章 インドの紅茶及び紅茶産業の歴史

第一節 イギリス支配による紅茶産業

第二節 紅茶産業がイギリスに与えた歴史

### 第三章 紅茶産業の現状

第一節 インド産紅茶産業の概観とその特徴

第二節 紅茶農園の経営体制（プランテーション茶農園、小中規模農園）

### 第四章 紅茶農園が直面している問題点

第一節 国際市場でのインド産紅茶価格の低下

第二節 価格低下が紅茶産業にもたらす影響

### 第五章 小中規模紅茶農園の展望

第一節 協同組合茶農園の現状

第二節 協同組合農園の可能性

おわりに

がんばれ 

## はじめに

「どうして日本人は貧困問題に疎いのか？」これは著者が兼ねてから抱いている疑問である。この素朴な疑問に対し「貧困問題への関心・認識が薄い」日本人にとって、自分と貧困問題を関連付けるきっかけがほとんど存在しないところにその一因があるのだと考える。

モノが溢れる日本の社会で生活をしていると、貧困などはまるでないのかのような錯覚に陥りやすい。現実、消費者である私達は消費をしている一方で生産者は懸命に生産している。この顕著な例は先進国の私達消費者と発展途上国の生産者の場合である。このありありは、自分達があたかも二分された世界で生きているような感覚を抱かせる。現在、多くのモノが私たちの目の届きにくい発展途上国で生産されている。それを先進国で暮らしている私達が消費をしている現状があることから、自分達は発展途上国の生産者が抱える問題などとは関係がないと思うことはある意味自然な流れとして、捉える事ができるのかも知れない。しかし、本当に消費者は生産者と切り離された世界で暮らしているのだろうか。例えば生産者が直面している貧困問題はどうか。私たちは貧困と無関係に存在しているのだろうか。ここで、発展途上国で生産している何らかのモノに焦点を当てたら何かが見えてくるのかもしれないと感じた。

私は夏休みに大学のサークルの一環としてインドの紅茶農園、ダージリン地方でダージリンティを生産しているナムリン紅茶農園を訪れた。短期間ではあったが茶農園に滞在する事によって、今までは紅茶を消費する側にいた私にとって生産者を知る貴重な体験となった。

この機会を利用し、論文の中で発展途上国で作られているモノとして、インドの紅茶を取り上げたいと思う。それには、私自身がモノである紅茶と自分を関連付けることで、貧困問題を改めて考えるきっかけになったという背景がある。現在多くの労働者が紅茶産業に従事し、私達が気軽に消費する紅茶を生産し続けている。その一杯のインドの紅茶に焦点を当て、紅茶産業の歴史・現状・問題点を指摘したい。

現在、インドには大別して二種類の紅茶農園が存在する。一つは企業所有の農園で、もう一つは小規模農園である。企業所有の農園は広大で、ユニリーバ社が所有する日本で主流のリプトンイエローラベルの商標は企業所有の農園の代名詞的な存在であり、これらの茶農園は紅茶の生産の96%を占めている。それと対照的に小規模農園はわずか4%の紅茶の生産しかしていない。紅茶は国際商品のため、国際市場価格の変動に敏感な小規模農園の労働者の生活は成り立ちにくく経済的貧困に陥り易い。現在、紅茶のモノカルチャーで生計を立てているこの小規模農園の現状改善のために必要と思われる自給自足、小規模農園者によるネットワークについて論じたいと思う。これを可能にする一つの形として協同組合紅茶農園を取り上げる。そして実際にインドで機能している協同組合を考察し、その役割を示し可能性を考察する。最後に結論としては、私たち消

費者はインドの紅茶生産者と身近な存在となりうることを論じる。貧困問題は海を隔てた「遠くの国々」で起こっている問題でなく、私たちの生活に密接に関係しているということを示そうと試みる。

文章の構成としては、一章では著者が実際に訪れたナムリン紅茶農園での体験、感想などについて書きたいと思う。二章では、紅茶農園で感じた疑問点、問題点を解くために、インドの紅茶農園がイギリスによるインド統治以後に開始された紅茶栽培の過去を考察する。三章では、現在のインドの紅茶産業の概観を示し、その特徴を指摘、考察する。4章ではインドの紅茶農園が直面している問題点について触れ、その要因について考察する。そしてその問題がもたらす影響を小規模農園と企業所有の農園に分けて考察を試みる。五章では、厳しい状況に置かれている小規模農園の改善策を論じる。自給自足的な生活を取り戻すこと、そして小規模農園同士のネットワークを築くことが重要だと思われる。それを実行する一手段としての協同組合農園について論じる。現在機能している協同組合の現状や問題点などを考察していく。

## 第一章 ダージリン地方のナムリン紅茶農園での滞在

著者は夏期休暇中、大学の活動会である SoFA のメンバーと共に活動の一環としてナムリン紅茶農園を訪れた。ナムリン紅茶農園は、ヒマラヤ山系の一部を形成している西ベンガル州の極北部に位置している。ダージリンティで知られるダージリン地方は、紅茶産業と観光業が主幹産業となっている。



### 第一節 ナムリン紅茶農園への道程



私たちは、車で険しい坂道を登り続けナムリン紅茶農園に到着した。車中からは、深く青々とした緑に包まれた壮大な自然の中にある山々が始終見えていた。私たちの車両と行きかう車はほとんどなかったため、車は幅の狭い坂道のカーブも勢いをつけてぐんぐん登っていった。走り始めたあたりの道路には人がいたが、山腹に達するにつれどん

どん少なくなっていく。ダージリン地域は標高 1300 メートルから 2500 メートルに達する山岳地帯である。

車で走行してしばらくたった頃、道路のあちらこちらに人が現れ始めた。そして私達はあることに気がついた。それは、彼らがモンゴロイド系の顔をしている人達であったことである。ナムリン紅茶農園に向かって出発した平地では、インド人しか見ることがなかったのに、である。なぜだろう、と疑問を抱きながら車両はナムリン紅茶農園に到着した。この農園まで到着するために要した時間は 3 時間。平地からは随分離れた土地にその茶農園は巨大な土地を有しながら点在していた。

## 第二節 紅茶農園で取り組んだこと

一日目は、茶農園のマネージャーの案内の元、紅茶が葉から製品に成るまでの過程を見学した。紅茶は通常、茶摘されてから 24 時間で製品になる、ということであった。それと同時に紅茶農園で働く人たちの生活及び労働状況などを聞いた。この農園には 1000 人の常勤の労働者と、1200 人の季節労働者が働いている。マネージャーの話では労働者は、紅茶農園区域内に住居を与えられ、毎週米、麦などの配給を受け取る。さらに病院、学校も労働者の負担はなしに、社会福祉制度を享受できるとのことであった。そして二日目は茶農園で働く労働者とわずかながら話すことができた。

ナムリン紅茶農園には、私たちが茶農園に向う途中にすれ違った顔を持つ人たちがいた。後に、彼らはネパール人であることがわかった。それはダージリン地方が、インドの国境に位置しネパールと隣接しているためである。ネパール人である彼らの先祖はネパールの国境を越えて、インドに入ってきたのである。また、今現在も行き来を繰り返しているという。

紅茶の茶葉がどのような経過を経て栽培され、紅茶として製品化されるのかを見学した。紅茶の葉は、一枚の芽と葉二枚を一緒に丁寧に、しかし敏速に女性労働者によって摘み取られていた。茶葉を入れる 20 キロ以上にもなるバスケットには紐が付いており、額の部分にそれを引っかけ両手で作業をしている。摘み取られた紅茶は機械を用い五段階の生産過程を通過する。初めに茶葉をしなびさせる。次に、茶葉を丸め、発酵させる。その後乾燥させ、仕分けをして出来上がりである。紅茶はこのように、農業生産品としての側面の他、製造業的側面も持っている。通常紅茶は、摘み取られてから 6 時間以内に加工過程に入らないと紅茶の品質は相当低下する。茶葉は機械を用いられ、わずか 24 時間で紅茶になる。

### 第三節 紅茶農園で気付いたこと

ナムリン紅茶農園で働く人達についてマネージャーに話を聞いた。労働者の月収は1000 ルピーであり、インド政府の援助で、病院や学校もあるため、生活が目に見えて悪いとは思わなかった。紅茶農園で働く人たちの現状が明るいものとして少し見えてきたような気がした。

滞在二日目、紅茶農園の労働者と直接接する機会に恵まれた。茶農園の学校では、ネパール語、ベンガル語、英語で教育が行われている学校もあるため、多少の英語話者がいるようだった。しかし、彼らの話す言語は主としてネパール語であったため、英語での意思疎通はほとんど図ることができなかった。彼らとの交流は半ば諦めてかけていたとき、昼間は小学校の先生、夜は茶園工場の労働者に変身する英語を話す一人の男性と出会った。その先生と話をしていた時いくつかの質問をした。「ここでの生活については実際のところどう思っていますか？」という質問に対して、「ここでの生活？それは大変さ。ここでの労働賃金は一週間に 240 ルピー<sup>1</sup>だよ。ご飯代で消えてしまうほどの賃金しかもらえない。学校にもお金がかかるから子供たちを学校に送り出す余裕さえ生まれない<sup>2</sup>。そして、茶農園での仕事には誰でも就けるわけではない。これは世襲制だから、家族のうちの誰かが仕事をリタイアしたらその家族内の誰かのみが働くことができる。だから、ここには失業者が多いのだよ。」という返事が返ってきた。マネージャーからは、紅茶農園の労働者は一定以上の生活を営んでいると聞いていただけに、この先生との会話で受けた衝撃は大きかった。

私たちが紅茶農園で働いている人たちと触れ合いと限られた情報の元で受けた感覚は、「彼らは、今でも封建的なイギリスの植民地支配の下にあった時代と同じ様な暮らしをしているのではないか」であった。農園に住む人々は現代インド社会からは隔離され、紅茶農園に住んでいる彼らには紅茶産業関連の仕事に就く他の職業の選択肢はない。閉じ込められた空間で、与えられた多少の自由の中で暮らしているように思えた。与えられた自由は、自分たちが能動的に得る自由とは異なる。与えられた自由の下に身を置けば、それが自然になるのかもしれない。しかし、与えられている環境下では、自然と受動的に行動し、自発的に行動することが難しくなるのではないかと強く感じた。「受動性」を乗り越え、自分たちが自分たちの自由を手に入れるためには何ができるのかと考えた。

インドの紅茶農園労働者は、モノカルチャーで紅茶栽培をしておりそれによる、現金収入があつてこそその消費生活を彼らは送っている。実際に国際市場価格に左右される紅

---

<sup>1</sup> 1 ルピーは約 2.5 円。週給は 240 ルピー。月給は週 250 ルピー換算の 1000 ルピー。

<sup>2</sup> 制服代、教科書代は自己負担となっている。

茶を生産し続けることは、いざインドの紅茶の価格が急落した時に何の保障もなく、農園から放り出される危険性と隣り合わせだということがいえる。これを回避し、持続的な生活を送るには自給自足的な生活を取り戻すことが必要であると考え。モノカルチャからマルチカルチャに移行し、家禽類、野菜、米、麦、薬草などを育てることが大切であるし、彼らが行き続ける根源的な手段だとも言うことが出来る。そして、ナムリン紅茶農園は企業所有による紅茶農園であるから、実際に行動に移すことが可能であるか否かは判断しかねるが、紅茶農園従事者同士のネットワークを築き、ノウハウを学びあったり、共有しあったりして、立地条件により隔離されがちな農園労働者を何らかの形で繋ぐことは重要であると考えられる。



## 第二章 インド産紅茶および紅茶産業の歴史

インドの紅茶産業は1947年の独立を果たすまでの約100年間イギリスによる支配の下紅茶を栽培していた。プランテーション作物として多くの労働力が必要な産業であり、インド独立を迎えるまでインドでの紅茶生産は莫大な富をイギリスにもたらした<sup>3</sup>。産業革命の時代に入り紅茶は、高貴な人たちの飲料ではなくなり、労働者階級にまで普及したポピュラーな飲料として愛飲されていた。

### 第一節 イギリス支配下にあった紅茶産業

イギリスがインドで紅茶栽培を開始したのは今から168年前の1835年にさかのぼる<sup>4</sup>。1834年のアッサム州で商品としての紅茶の大規模な販売が開始された。紅茶は、密林湿地地帯を好むため、当初はごく限られたインド西南の地域で栽培されていた。原生の紅茶木がアッサムにて発見、栽培が開始されてから、近隣のダージリン地方でも栽培が始まった。ダージリンとアッサムとバングラデシュは歴史を辿ると同じ地域であったが、変遷を経たため現在地域及び国分けになっている。

イギリスによるインドの紅茶農園の支配は、東インド会社により強力に進められ<sup>5</sup>、東インド会社はインドと中国において完全な独占貿易を行っていた。イギリスの紅茶の独占販売が行われたことにより、東インド会社は紅茶の価格を吊り上げ続けた。それにより、わずか1500ヘクタール内の40の茶農園で50万ポンド生み出した<sup>6</sup>。イギリスにとって紅茶産業は巨額の資本源となっていた。

紅茶葉を栽培していた農園労働者は、ダージリンやアッサムなどの伝統的紅茶生産地域においては、インドで少数民族のネパール人やブータン人であった。紅茶産業で資本稼げることを知ったイギリス人経営者が莫大な利益を紅茶葉により得た後、彼らは半強制的に祖国から連れてこられた。また、自らダージリンに渡ってきた少数民族もいたと

---

<sup>3</sup> The Darjeeling Hills District, New South Wales Department of Education and Training.

[http://www.curriculumsupport.nsw.edu.au/HSIE/files/HSI\\_966darjeeling.doc?CFID=562044&CFTOKEN=38751109](http://www.curriculumsupport.nsw.edu.au/HSIE/files/HSI_966darjeeling.doc?CFID=562044&CFTOKEN=38751109)

<sup>4</sup> Parliament of India RAJYA SABHA, Sixty-Fourth Report on Export of TEA2003。  
<http://rajyasabha.nic.in/book2/reports/commerce/64threport.htm/>

<sup>5</sup> Tea auction.com, <http://www.teauction.com/industry/indhistory.asp>

<sup>6</sup> The Darjeeling Hills District, New South Wales Department of Education and Training,

されている<sup>7</sup>。諸数民族がダージリンに移住して来たことを受けて大規模な人口移動が起こり、彼らは茶農園内にコミュニティーを作り上げていった。現在も村そのものが紅茶農園の中に存在している。当時の彼らの労働状況は、保健衛生面や労働状態を考慮されない半奴隷状態であったとされている。

## 第二節 紅茶産業が先進国イギリスに与えた影響

1600 年台より、紅茶はイギリス国内の貴族により愛飲されてきた。当時は、中国から輸入されていた緑茶を飲んでいただけとされるが、インドで紅茶が作られ始めると消費は紅茶に傾いていった。当時の紅茶の価格は約 453 グラム \$ 100 相当の高額であったとされ、貴族など富裕層に限られた高級飲料であった<sup>8</sup>。

それから約 100 年後の 1700 年代、イギリスで産業革命が起こり、資本主義及び帝国主義経済の下ヨーロッパが世界を運営していた時代に入った。アジアやアフリカの植民地からは大量の綿花・砂糖が輸入され、産業革命はイギリス国内で生産の波を作り出した。それにより地方から多くの人々が「豊か」な生活を切望し、大規模な都市化が起こった。非常に多くの労働者が流入した結果、都市はスラム化が進み劣悪な住環境が形成されていった。住環境もさることながら、産業革命時代の労働者の労働実態は過酷さを極めていた。彼らは長時間の過酷な肉体労働をしていたにも関わらず、低賃金を受け取っていた。このような悲惨な環境の中で、多くの労働者がジンやエールなどのアルコールによって疲れを癒そうとしていたため、大変多くのアルコール中毒者がイギリスにはいたとされている<sup>9</sup>。これは産業革命時代の社会問題であるとして当時の政治家や資本家は問題視していた。

この問題を懸念していた政治家や資本家は、労働者の危機的状態を察知し労働者に酒を飲むに、紅茶を飲む事を推奨した。それも紅茶はただの紅茶ではなく、砂糖入りであった。即効性のカロリー源と、覚醒作用を有する「砂糖入りの紅茶」はジンやエールに替わる飲料として完璧だったと言える。当初高かった紅茶の価格はこの紅茶効果を受けて、関税が引き下げられ、労働者階級にも普及していった<sup>10</sup>。

インドの紅茶はこうして、イギリスの富裕層のみならず低所得者にも愛飲されるようになった。イギリスにとって紅茶は経済的、社会的に重要な意味を持つ飲料として、重

---

<sup>7</sup> 山口哲夫『インドにおける茶産業の諸問題』1957年。

<sup>8</sup> Tea auction.com, History Section.

<sup>9</sup> 加藤雄三・川北稔『世界の歴史 アジアと欧米世界』274 ページ。

<sup>10</sup> 同著 同書 同項。

要な役割を果たしてきた。産業と結びついた紅茶はイギリスを始め、他の西東欧諸国、アメリカに伝わっていった。

インドにおける紅茶労働者は、紅茶を半奴隷的労働条件下で懸命に生産し続け、その紅茶は高貴な裕福なイギリス人に飲まれていた。後に、その紅茶は過酷な肉体労働を強いられたイギリス人労働者に広く普及していった。紅茶を飲む多くのイギリス人労働者はイギリスの経済を底支えしていた。それ故、紅茶はイギリスの経済振興にとって歴史の中では何重にも不可欠な飲料でもあった。紅茶は「労働者による礼儀正しい振る舞い」と「生産性を維持しつつ生産性を上げる」ために飲まれてきたとすることができ、国際政治経済的な側面を持つ飲料であったと言える。

### 第三章 インド紅茶産業の現状

三章では紅茶農園が歩んできた歴史を踏まえて、現在の紅茶農園および紅茶産業の実態を考察する。国内及び国際市場の中でのインドの紅茶産業を考察する。紅茶を生産している主要な州や地域についても個々の事例として取り上げる。紅茶は全世界でインド以外にも中国・スリランカ・ケニア・インドネシアなど 32 カ国以上の国々で生産されている。

#### 第一節 インド紅茶産業の概観

インドは世界で生産される紅茶の 28%を生産しているおり、紅茶主要生産国であるインド、中国、スリランカ、ケニア、インドネシアの中で世界一の規模で生産している(表 1 & グラフ 1 参照)。また、インドの紅茶の耕作面積は紅茶生産国のうちの 2 割を占め、507200 ヘクタールに及ぶ。現在世界の 32 カ国の国々で、約 2.5 百万ヘクタールで栽培されている。

表 1 主要紅茶生産国の紅茶生産量の割合

紅茶生産国	生産量 (%)
インド	28%
中国	23%
スリランカ	10%
ケニア	8%
インドネシア	6%
合計	75%
全世界での紅茶生産量(m.kg)	3013 m.kg

出所: Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003  
6 項より邦訳。

#### 産業的側面

植民地の歴史的経過から、紅茶はプランテーション作物の一つとして認識されている。そのためインドの紅茶産業は多くの雇用を生み出している。100 万人もの直接雇用、200 万人以上の人々が間接的または季節雇用者として紅茶産業に携わっている。インドの実質上の外貨収益は、おおよそ 1850 千万ルピーとされている。その額のうち、約 1100 千万ルピーはインドの州および中央の財源となっている。この点から紅茶産業はインド

政府にとって重要な産業である<sup>11</sup>。大企業の紅茶プランテーションが存在している中で、小規模紅茶農園はその数をはるかに上回っている。小規模紅茶農園はインドの雇用吸収の役割を果たしているとインド議会は発表している。

### 紅茶主要産地の地域

紅茶は、インド国内の 22 の地域で栽培されている<sup>12</sup>。近年の傾向として、紅茶の年間生産増加率は 1995 年から 2003 年までの時点で毎年 2%増加している<sup>13</sup>。これは、伝統的な紅茶生産地域であるアッサム及びダージリン地域その他、近年紅茶栽培を始めた地域が増加したためである。

#### (1) アッサム州での紅茶農園の現状

現在アッサム州には、770のプランテーション紅茶農園が存在し、941の小規模紅茶農園が存在する。インド産生産される紅茶の50%を生産している。同州においては、小規模紅茶農園は健全に成長しているといえる。ボートリーフ工場（摘まれた紅茶の葉を買取り、製品化する工場）も同時に設立され、小規模茶農園から茶葉を買っている。

アッサム州では立地条件上、紅茶農園が洪水の被害にあっており貴重な土地と、所有物を失うことは主要な不安要因としてあげられる。

#### (2) ビハール州での紅茶農園の現状

西ベンガル州のダージリン地域に近いビハール州は 1982 年に耕作が開始された新しい紅茶栽培地域である。5ヘクタールで始まった紅茶農園は、10年で125ヘクタールもの広さの紅茶農園に成長した。多くの小規模紅茶農園が成功している中で紅茶産業は 20,000 人の紅茶の直接雇用を生み出している。ビハールの経済成長において紅茶産業は重要な役割を果たすと期待されている。

#### (3) ケララ州での紅茶農園の現状

70年の歴史を持つケララ州は、南インドが生産する34%の紅茶を生産し、インド全土の生産量の10%を生産している。ケララ州にも多くの小規模農園が存在している。小規模紅茶農園の茶木が老朽化しており、紅茶の生産性が上がらないため、採

---

<sup>11</sup> Parliament of India RAJYA SABHA, Sixty-Fourth Report on Export of TEA,6頁。

<sup>12</sup> Parliament of India RAJYA SABHA, Sixty-Fourth Report on Export of TEA,8頁。  
インドでの主要産地は13州であるが、全茶産地は22州である。

<sup>13</sup> 同上調査書 6ページ。

算が合わず、紅茶の品質も下級であると言われる。

ケララ州の茶産業は労働者に賃金が支払われていないというは深刻な問題に直面している。農園が閉鎖したり、機能不全状態にある。

#### (4) タミル・ナドゥー州の紅茶農園の現状

タミルナドゥー州は南インドの紅茶生産量の50%を生産している。完全に紅茶産業に従事している60,000以上の小規模紅茶農園を所有している家族がいる。会社所有の紅茶農園やTANTEAと言う名義の元タミルナドゥー州所有の大型プランテーションが存在する。ニルギリ紅茶が有名である同州のニルギリ地方の紅茶農園の労働者は少数民族である。ニルギリは、インドへの安価な紅茶の流入によって打撃を受け、小規模農園は閉鎖を余儀なくされている。

#### (5) 西ベンガル州

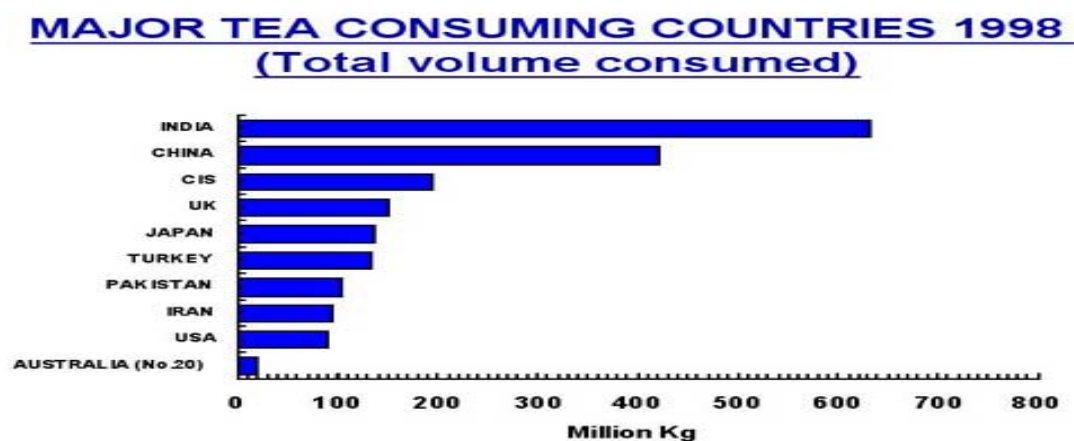
『シャンパン、マスカットフレーバーの紅茶』として有名なダージリンティの生産地ダージリン地方は西ベンガル州にあり、146年の歴史を持つ紅茶生産州にある。アッサムの次に多くの紅茶が生産され、ダージリンブランドを確立している生産される高品質のダージリンティの78%が輸出されている。

ダージリンの紅茶産業は困難に直面している。旧ソビエト諸国への輸出量がなくなったことを受けて、紅茶による歳入が減少している。また強力な化学肥料や農薬を使用しているため、土壌が悪化している。また、ネパールなどで偽ダージリンティが売り出されているため、市場価格が下がっているという報告もある。

## 紅茶消費

インドは世界一の紅茶生産国であると同時に、その人口の多さにより年間消費量 6 億トンと世界で一番の紅茶消費国となっている（グラフ 2 参照）。

グラフ 1 主要な紅茶消費国の割合



出所：Australian Food Grocery Council's (AFGC) (<http://www.tea.org.au/>) より作成。

一方、国民一人頭あたりでは、年間 660 グラムとなっており紅茶を好む国の中では、最低水準の消費量である。

## 生産された後の紅茶

生産された紅茶は、農園の規模によるが、大抵の場合は仲介人によって茶葉を買い取られる。その茶葉はインドで 125 年間の歴史を持つオークションハウスにて取引される。紅茶の価格は非常に変動し易い<sup>14</sup>ため、このオークションハウスは毎日開かれ、紅茶の味が確かめられた上で取引される。それは紅茶の品質は同じ農園の紅茶でも、変わりやすく一定の価格を設定できないため、オークション会場では紅茶の試飲が行われ、価格がその都度決められる。インドには 6 つのオークションセンターがある。

## 第二節 インドの紅茶産業の特徴

インドの紅茶産業は、他の茶産業国には見られない二つの制度を持っている。一つはプランテーション労働法であり、もう一つは二重税制度である。この制度について考察する。

---

<sup>14</sup> Fair Trade Year Book 2001, Tea – a Fair Cup? 70 ページ。  
[http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05\\_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?'](http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?)

### (1) プランテーション労働法

プランテーション労働法は、インドがイギリスから独立後 1951 年にインド議会を通過し作られた法律である。同法律はインド中央政府が可決した法律であり、州政府により実行される。法律の枠組みは中央政府により決められ、それを踏まえて州政府が適用させる。同法は紅茶、コーヒー、ゴム、カルダモン、シンコナの大規模農園作物に適用される。

プランテーションのオーナーは、茶園労働者とその家族に無負担で福祉機関を提供する事が義務付けられている。住宅、保健衛生施設、病院、週休、教育などが含まれる。この労働法は、紅茶農園労働者がイギリスの統治下に置かれていた非人道的<sup>15</sup>な労働と生活を強いられていた背景が影響している。労働者の権利を守るため、イギリスからの独立を機に同法が成立した。この法律の施行により労働者が団結し、彼らの権利を行使できる場が作られているとされている。

このプランテーション労働法は、雇用主が労働者の社会福祉の一切を賄う義務を負う為、雇用者にとって負担であると言える。

### (2) 二重税制度

紅茶の栽培と製造には、中央所得税と州農業の税が課せられている。所得の六割が農業所得の課税対象として州政府の農業税の対象とされ、残りの四割の所得は中央の所得税の課税対象となる。同法は、1961 年に制定された中央所得税法により定められている。州政府の農業税率については各州により異なる。アッサム州では 45%、タミルナドゥ州においては 65%である。

表 2 紅茶におけるインド政府の適用範囲内の中央税の税金

中央税の種類
1. 中央所得税
2. 紅茶法下の物品税
3. 売上税
4. 工場認可税

出所: Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003

13 ページより邦訳。

表 3 紅茶におけるインドの州税として適用範囲内の税金

<sup>15</sup> 半奴隷的労働。



州税の種類
1. 農業所得税
2. 土地税
3. プランテーション税
4. 売上税
5. 建物税
6. 土地物品税
7. 機械認可税
8. 生産税
9. サービス税

出所：Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003

13 ページより邦訳。

### 第三節 紅茶農園の経営体制

紅茶農園は、大別して二種類に分けられる。一つは、紅茶の葉の生産のみに特化している農園、主に小規模農園と一部の中規模農園である。もう一つは茶葉の生産を行い、その茶葉を紅茶へ製品化している農園、主に一部の中規模紅茶農園と企業所有の抱き簿紅茶農園である。

表4 インドにおける紅茶農園の経営体制

経営体制の種類	説明
小規模農園	10.12ヘクタール以下の複数の地主による土地の所有
中規模農園	200ヘクタール以下の一人による土地所有、又は協同所有 1) 茶葉の栽培のみ 2) 茶葉の栽培と製品化
大規模茶農園	企業会社 <sup>16)</sup> による土地所有
紅茶プランテーション	FERA <sup>17)</sup> 会社による土地所有 <sup>18)</sup>
小中大規模茶農園	政府所有の請負茶農園*

出所：Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003  
8ページより邦訳。

紅茶農園の経営規模は、小中規模茶農園と、企業所有の大規模農園とに分けられる。別格として、政府所有の請負茶農園が存在する。小規模農園の数の割合は98%<sup>19)</sup>である。大規模紅茶農園は多国籍企業であるFERA会社とインド資本の会社に分類できる。

#### (1) 小中規模農園の概要

<sup>16)</sup> インドの私企業。TATA社が代表的な会社。

<sup>17)</sup> Foreign Exchange Regulation Act(FERA)。外貨規制制度。1973年にインドの現地で運営している外国資本4割を超える会社に規制を課す法律。しかし、経済政策自由化の影響のため、修正されている。現在は、規制はほとんど受けずインド私企業と同様、自由な経済活動をしている。FERA会社があることは、イギリス植民地生産物であった紅茶が今現在に至っても紅茶農園の所有権が外国資本企業に多大な影響を受けていることを示唆する。

<sup>18)</sup> India Finance & Investment Guide EXPORT & IMPORT。

[http://finance.indiamart.com/exports\\_imports/exports\\_from\\_india/fera.html](http://finance.indiamart.com/exports_imports/exports_from_india/fera.html)

<sup>19)</sup> Parliament of India RAJYA SABHA, Sixty-Fourth Report on Export of TEA<sup>19)</sup>。

インドの小中規模の紅茶農園はインド人にとって、一定以上の現金収入が他の一年生作物を生産するよりも得られるため、近年増加傾向にある。アッサム州においては、その数が特に増加している。インド国内には現在 10.12 ヘクタール未満の小規模紅茶農園が 10 万茶園以上ある<sup>20</sup>。小規模農園は、高度な生産能力や資本が不足するため、品質は大規模農園のそれと比較すると劣る場合が多い。これらのほとんどの農園では紅茶の葉の生産に特化しており、工場を有する茶農園は少ない。摘んだ後、6 時間以内に紅茶への第一加工段階に入らないと品質が著しく劣る<sup>21</sup>。そのため茶葉は大規模農園に買い取られるか、ポートリーフ工場に買い取られ製品化される。僻地に存在する紅茶農園は、売り手の選択肢がほぼないまま、大抵紅茶は安い値で買い取られる。これらの紅茶農園は、紅茶の葉の売却のみが収入方法となっている。モノカルチャーで紅茶を生産している。小規模農園の収入は少なく、農園の経営は困難に瀕している。これらの多くの農園は企業の農園やポートリーフ工場に茶葉買い取られるため、従属的な関係にある。

## (2) 企業所有の大規模茶農園

大型紅茶農園を所有するのは、インドの国内資本の企業所有の紅茶農園と多国籍企業所有の紅茶農園である。プランテーション農園では、多くの農園労働者が働いているため、労働集約型農業となっている。大型プランテーション紅茶農園は、小中規模の紅茶農園と比べ力を持っている<sup>22</sup>。国内資本の有限会社に属す企業が T A T A<sup>23</sup>である。FERA 会社が多国籍企業所有の農園となる。FERA 企業の代表はヒンドゥスタンリーバ<sup>24</sup>である。これらの農園には、紅茶を生産する紅茶畑とその紅茶葉を製品化する工場も備わっている。茶葉を安価で買い取られるおとはないため、その点において利益を生み出すことができる。

---

<sup>20</sup> Parliament of India RAJYA SABHA, Sixty-Fourth Report on Export of TEA<sup>18</sup> 参。

<sup>21</sup> Make Trade Fair sponsored by OXFAM, The Tea Market \_a background study.  
<http://www.maketradefair.com/assets/english/TeaMarket.pdf>

<sup>22</sup> 労働力、生産力、組織力において。

<sup>23</sup> TATA 社は Tetley 茶を生産しているインド資本の大企業。

<sup>24</sup> Hindustan Lever Limited はインドにあるユニリーバの子会社である。ユニリーバ社は全世界の紅茶市場で一番のシェアを占める。インドの紅茶市場において HLL は一番のシェアを占め、T A T A 社は第二位である。第三に GOODRICKE 社 (イギリス資本) がシェアを占める。

Make Trade Fair sponsored by OXFAM, The Tea Market \_a background study より。

### FERA会社（多国籍企業）

茶葉から紅茶が個装されるまでの工程を一挙に賄う。FERA会社は会社所有の農園があるだけでなく、他の紅茶農園との有利な関係を持っているといわれる。そして、オークションでの影響力も強く（ページ25 グラフ6 参照）、取引価格の操作をすることが可能である。そのため、仲介人<sup>25</sup>を通さず流通にかかる経費を大幅に削減することを可能にしている。

現在の紅茶の流通過程は、ページ19の表5のように描く事ができる。紅茶産業は、あらゆる流通過程で多国籍企業が様々な形で関わっている。

---

<sup>25</sup> 通常ブローカーやバイヤーと呼ばれる。しばしば外資企業関連の人たち。

表5 茶葉から紅茶の製品になるまでの流通過程

農業的側面	産業的側面	流通過程
生産	加工	オークション ↑ 多国籍企業が実権を握る
FERA 会社 農園	自家農園	多国籍企業のブレンド・パッカーが購入
インドの企業 農園	自家農園 ↑ 多国籍企業が関与	多国籍企業のブレンド・パッカーが購入
小規模農園 一部の中規模 農園	プランテーション ボートリーフ工場 ↑ 多国籍企業が関与	多国籍企業のブレンド・パッカーが購入



流通過程		
輸出入	店舗	
多国籍企業		
輸出入業者が購入	小売り	消費者

出所：著者作成

#### 第四章 インド紅茶産業が直面している問題

現在のインド紅茶産業は、インド産の紅茶のオークション価格の下落が深刻化している。インド産の紅茶がオークションにて高値を得られていない。現在もインド産の紅茶はスリランカ、ケニアに比べ低い価格で取引されている。この問題は紅茶産業のみならず、紅茶産業が納める税金を得ているインド国家およびインドの州政府にとって深刻な問題である<sup>26</sup>。

表6 インド・スリランカ・ケニアのオークション価格 (US \$/kg)

	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01
インド	2.47	1.77	1.50	1.60	1.29	1.48	1.38	1.84	1.85	1.69	1.37	1.29
スリランカ	1.79	1.42	1.42	1.43	1.32	1.41	1.88	2.03	2.08	1.63	1.75	1.61
ケニア	1.48	1.42	1.67	1.55	1.57	1.29	1.42	2.00	1.89	1.78	2.02	1.53

出所: Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003

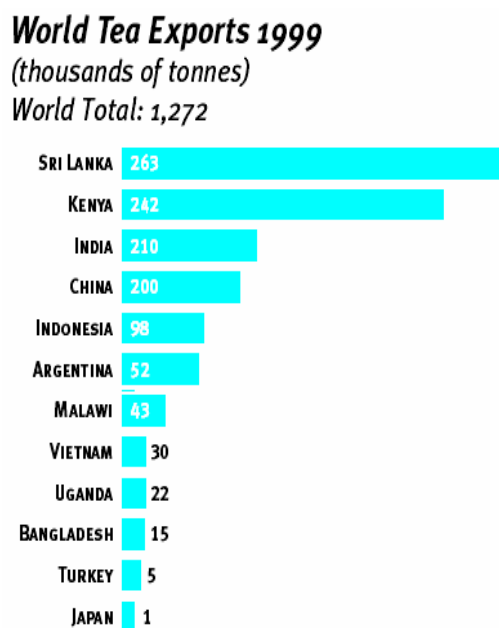
14項より邦訳。

<sup>26</sup> 紅茶産業によりインド中央・州政府は 1850 千万の外貨獲得のうち 1,100 千万ルピーが税収となっている。同上調査書より

## 第一節 国際市場でのインド産紅茶価格の低下

インド産紅茶のオークションの取引価格が低下している。それと対比的に、スリランカ、ケニア、インドネシア、バングラデシュ産紅茶の取引価格は上昇している<sup>27</sup>。スリランカにかけては特にインドの紅茶の価格よりも高い値段で取引されている。紅茶産業は、オークション取引価格の低下を受け打撃を受けている。それによりインド産紅茶の輸出は減少している。現在インドは世界で4番目の紅茶輸出国である。紅茶を現在一番多く輸出している国はスリランカである。(グラフ2 参照)

グラフ2 紅茶輸出国の輸出量の割合



出所：Fair Trade Year Book 2001, Tea – a Fair Cup? 70 項より作成。

[http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05\\_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?'](http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?)

<sup>27</sup> Parliament of India RAJYA SABHA Sixty-Forth Report on Export of TEA 2003 14 ページ。

## 価格低下の要因

インド産紅茶の価格の低下をもたらしている要因はスリランカ・ケニアで大量の紅茶が生産されている点にある。これらの国々はユニリーバ社などの多国籍企業の活動規制がインドに比べ緩いため起こっているということが可能である。スリランカとケニア産の紅茶は 1996 年を境に紅茶のオークション価格をインドのそれより上回り、輸出量の割合をより多くしめている。

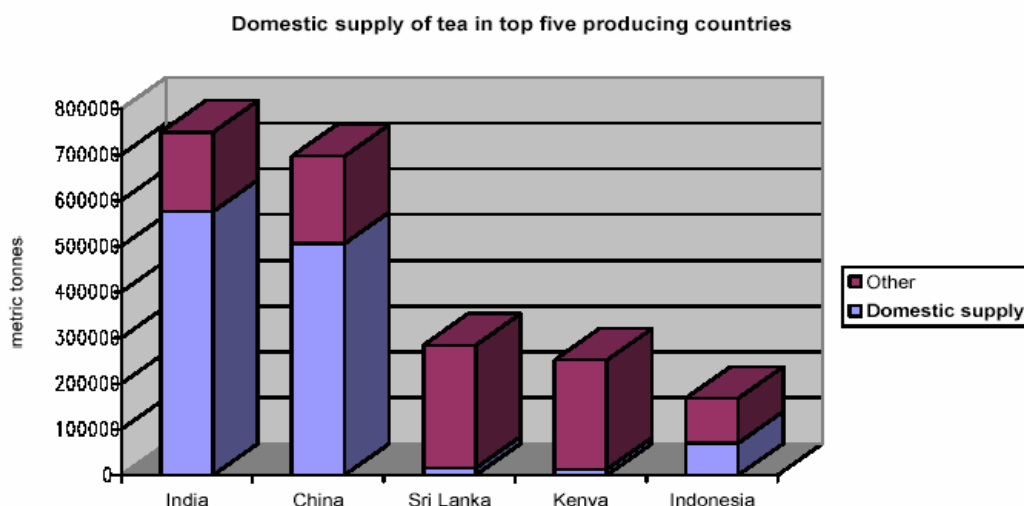
インドの紅茶産業特有のプランテーション労働法と二重税制度は紅茶生産のための費用を上げている。市場でスリランカやケニアの紅茶と共に取引される場合、国際市場競争ではオークションでの紅茶の価格が下がる。よって、インド産紅茶の価格の低下が起こっている。

そして、近年開始されたWTOの紅茶輸入に関する規制緩和により、スリランカやケニアなどの紅茶がインド国内に流入してきている<sup>28</sup>。現在インドは、人口の増加と共に国内の紅茶消費が伸びているため、国内で生産される紅茶よりも安価な紅茶がマーケットに進出されることで、それよりも高価なインド産の紅茶が以前ほど飲まれなくなっている<sup>29</sup>。生産費用が高むため、茶木の植え替えなどが滞り、農園あたりの生産性も落ちている。

## スリランカ・ケニア産紅茶の概要

インド国内のオークションで最高価格を付けているスリランカ・ケニア産紅茶のプランテーション栽培は多国籍企業の先導の下盛んに行われてきている<sup>30</sup>。紅茶栽培のための人件費や税金も最小限に抑えられる。よって、紅茶が安価に生産される。インドよりも低価格で紅茶を栽培し生産しているため国際競争力を付けている。インドは、世界最大紅茶消費国であるがこれらの国々は伝統的に紅茶を飲む国でないため、生産した紅茶をほとんど輸入している。スリランカとケニアでの紅茶の国内消費はわずか（グラフ 3 参照）であり、ほぼ生産した全ての紅茶が国際市場に持ち込まれている。この二国以外にも、代表的な紅茶生産国は、中国とインドネシアが含まれる。

グラフ 3 世界 5 大紅茶生産国の紅茶消費量割合





出所：The Tea Market\_a background study

(<http://www.maketrade-fair.com/assets/english/TeaMarket.pdf>)より作成。

## 第二節 紅茶価格の低下が紅茶産業にもたらす影響

紅茶の価格低下が与える紅茶農園への影響を企業所有の大規模紅茶農園と一部の中規模茶農園<sup>31</sup>と小規模農園と他のもう一部の中規模農園<sup>32</sup>に分けて考察する。多国籍企業の茶農園は企業茶農園の中の一つとして捉えることにする。

### (1) 企業所有の紅茶農園に与える影響

大規模茶農園はほぼ全てが生産から紅茶の製造まで担っている茶農園である。膨大な労働者を抱えている茶産業にとってプランテーション労働法と二重税制度が負担となって紅茶の生産コストの増大、紅茶のオークション価格の低下によって採算が合わない状態の農園が多く存在し、労働賃金の低下や、未払いや配給の停止が深刻化している。紅茶農園の閉鎖も起こっている<sup>1</sup>。

### (1') 多国籍企業紅茶農園

一方で企業所有でも価格の低下に影響を受けていないのは、プランテーション茶農園を経営している多国籍企業である。インドで一番のシェアを持つ多国籍企業が、ユニリーバのインド版子会社のヒンドゥスタンリーバである。同社はHLLと訳されるが、紅茶のブランドは別に存在する。それらは、リプトン（イエローラベル）、ブルックボンド（レッドラベル、ターザ、A1、3ロージズ、スーパーダスト）、タジマハルである。HLLの親会社は世界一の紅茶輸出業者であり世界最大規模の輸出シェアを占めているユニリーバである（グラフ4 参照）。インドで売り上げ紅茶ブランド上位10位までに七つの紅茶がHLLの紅茶ブランドである。HLLは、紅茶の価格が下がっても販売売り上げ業績を伸ばしている（グラフ5 参照）。その要因となるのは、HLLのような巨大企業は、茶摘から紅茶の販売まで一貫して自社系列の機関を利用し、紅茶の小売の段階まで賄い、最低経費で運営できる。また、ユニリーバはオークションでの影響力も強いため、紅茶の取引価格をコントロールすることが可能（グラフ6 参照）。

また、これらの多国籍企業はスリランカ、ケニアにも多数の大農園を所有しているため、費用上インドで紅茶が生産しにくくなるが、紅茶を生産し続けることができ、痛手を被ることはないといえる。

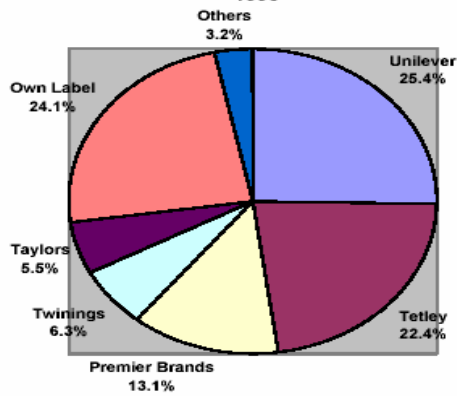
---

<sup>31</sup> 紅茶加工工場を持たない中規模紅茶農園。

<sup>32</sup> 紅茶加工工場を持つ中規模紅茶農園。

グラフ4 イギリス市場における1999年12月の各メーカーの占める割合

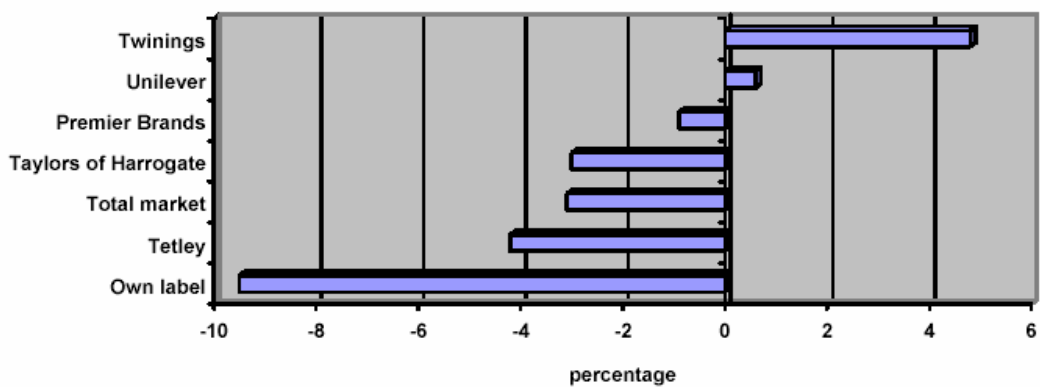
The UK tea market - manufacturers' value share of total tea in December 1999



出所：Hot Beverages Handbook 2000, Premier Brands より作成。

グラフ5 イギリス資本の紅茶メーカーの成長割合

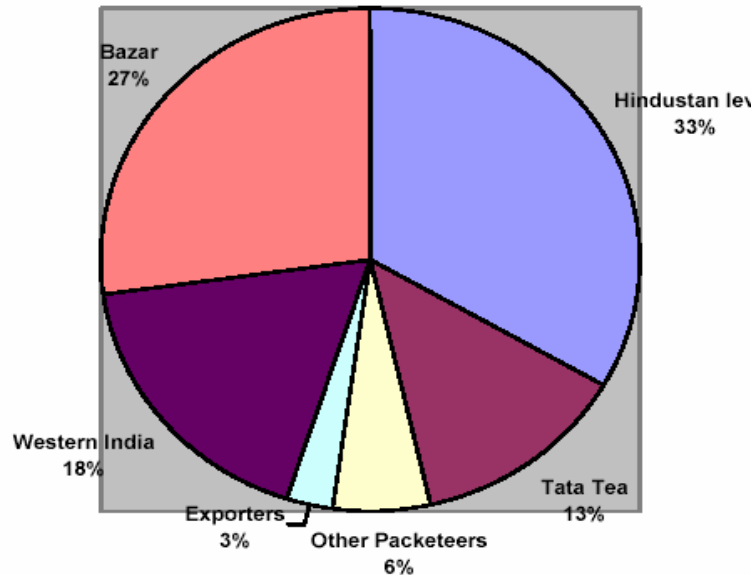
UK tea manufacturers' growth in value 1998-99



出所：Hot Beverages Handbook 2000, Premier Brands より作成。

グラフ6 1999年のインドのグワハティオークションでの買い手の割合(アッサム州)

Share of buyers at the Guwahati tea auction in 1999  
(30% of tea auctioned in India is sold through Guwahati)



出所：Hot Beverages Handbook 2000, Premier Brands より作成。

## (2) 小・中規模茶農園に与える影響

近年増加の一途を辿る小中規模の紅茶農園は紅茶の国際市場価格の低下により多大に影響を受ける。経済的困難な状況に陥りやすいこれらの茶農園は、経営の採算が合わず農園が閉鎖する場合や農園のマネージャーが仕事を放棄した場合、消費生活に慣れているここでの労働者は失業すると同時に飢えて暮らすことを余儀なくされる。実際に閉鎖した茶農園では人が仕事を失い、食べることが出来ずに貧困にあえいでいるケースが報告されている。

## 紅茶農園全体として

全体として、採算が合わず機能不全に陥っている農園は小中規模の農園である。現時点で53の紅茶農園が機能不全、閉鎖寸前、経営困窮状態、または既に機能していない。モノカルチャーの紅茶産業に託して生きてきた農園従事者は、茶園が閉鎖したり、機能不全になると直に影響を受ける。茶農園の仕事を失った労働者は10万人に上っている。

彼らにとって失業は貧困を意味する。また紅茶の農園が閉鎖すると電気や水も止まるため、保険・衛生状態も悪化する。よって、紅茶農園が閉鎖することは紅茶農園従事者にとっては死活問題として捉えることが出来る。

## 第五章 小中規模紅茶農園の展望

四章までで考察してきた通り、現在のインドの紅茶産業における小中規模農園には多くの問題を内包する。しかし、この状態に対して改善策を講じることは可能であると思う。

第一に、茶農園でのモノカルチャから脱却し、自給自足的な生活を送れるようにすることである。世界経済が彼らを取り巻く以前の自給自足の生活を再び取り戻すことにより、世界市場の影響を受け茶農園が閉鎖したとしても、食べるものを作る方法や知識をあらかじめ備えていれば、少なくとも飢えは避けられる。食物を欠かなければ次に何をすればそのコミュニティにとって最良かを考えることが比較的容易に出来ると考えられる。

第二に、これらの小中規模紅茶農園はまず農園同士の横のつながり、ネットワークを築くことが重要だと考えられる。立地的にも紅茶農園は離れて存在する場合が多い上に、小中規模農園は厳しい状態に置かれているため、同様な茶農園は連携していくことが有益だと思われる。農園が個々に存在せず、多くの農園が意思疎通を図り、学びあい、お互いを助けあうことは、茶農園の存続また繁栄に貢献しうらと思われる。互いに仲間を助け合い、共存していくことこそ、これらの農園には必要だと考えられる。

これらの改善策を実行する場の一つとして、協同組合紅茶農園が考えられる。雇う、雇われるの関係ではなく、自分たちが経営者であると同時に労働者であることは協力して生きることを可能にしうる。そして、利己的になるのではなくて、協力しながら生きられる環境として協同組合農園があるのだと考えられる。

五章では、協同組合紅茶農園について触れ、これからの小中規模紅茶農園が展望を持てるか論じたい。

### 第一節 紅茶協同組合農園の現状

の労働者協同組合紅茶農園は、閉鎖に追い込まれた紅茶農園をその茶農園で働いていた労働者自身の取り組みの中で生まれた。労働者協同組合紅茶農園は、機能不全状態に陥った農園をその農園で働いていた労働者が再び機能させている。紅茶農園が閉鎖している間、労働者は失業状態に陥るため紅茶プランテーションを一刻も早く機能させることが、自分達が明日食べていけることに繋がるのである<sup>33</sup>。したがって彼ら労働者にとっては現実的な選択肢として協同組合農園が作られているのである。

---

<sup>33</sup> Mysore Kirloskar: Workers' Alternative to Unemployment, Economic and Political WEEKLY。

<http://www.epw.org.in/showArticles.php?root=2002&leaf=05&filename=4505&filetype=html>

現在インドには、500人ほどの労働者組合員からなる西ベンガルのジャルパイグリ地域のソナリ労働者協同組合紅茶農園がある。この茶農園は1974年に協同組合紅茶農園として初めて立ち上がったものである。また、1975年からアッサム州の一つの茶農園が協同組合紅茶農園として存在している。その他に、インドのトリプラ州には成功を収めている5つの協同組合紅茶農園がある。これらの農園は1980年代前半から労働者組合員によって運営されている協同組合紅茶農園の成功事例でもある<sup>34</sup>。

現状では労働者協同組合紅茶農園の数は圧倒的に少数である。協同組合という経営体制での組織の運営は難しいとされているのがその理由である。通常の経営体制では、雇用者と労働者に区別され、両者はそれぞれの立場を持ち働く。それに対し、協同組合は雇用者と労働者が一致しており、組織の運営に個々の組合員が民主的に携わる仕組みとなっている。協同組合において意思決定には組合員の全てが参加し、組合員が論議を重ね納得する点で物事を進めていく。このプロセスは効率的な意思決定手段ではなく、人間一人一人が重視される地道なプロセスだということが可能である。話し合いのため早く物事が決まらないということは、それだけ多くのアイデアや意見が交換されているためであると考えられ、そこから生まれる答えには多くの人が同意できているはずである。

## 第二節 労働者協同組合紅茶農園の可能性

閉鎖したインドの紅茶プランテーションの労働者は本来ならば仕事を失い、それ以後の生活を営むことが困難になってしまう。しかし、協同組合農園は閉鎖した農園を失業した労働者自身によって再び機能させ、運営を可能にし、自分達が仕事を持ち再び働くことができるという利点をもつ。そして協同組合茶農園は労働者自身によって創設できるため自分たちの手で問題を解決し、自己尊厳が失われている地域ではそれを再確立できる可能性を持っている<sup>35</sup>。

さらに協同組合農園で自給自足的な生活を実践していくことは、これから協同組合農園が存続していくためには必ずや必要になってくると思われる。そして、協同組合紅茶農園ネットワークのようなものがまず作られることが重要である。同じ境遇にいる組合員達は個々に存在するよりは、まとまり意見交換をしたりお互いに成長しあうことが彼らにとって有益であると考えられる。協同組合紅茶農園同士のネットワークが確立されたら、それが他の協同組合と繋がったり、海を隔てた消費者協同組合と連携することも可能であると考えられる。

協同組合農園の一つの目的は、個々の労働者が経済・社会的に豊かに幸せになること

---

<sup>34</sup> 同雑誌。

<sup>35</sup> 同上雑誌。

である。よって、彼らは産業の運営権利の分配がなされるために、民主主義についての教育や、責任を持つこと、協調しあう事、を規定している。それと同時に協同組合は、仲間・家族・友達をつながりやを強力にする相互の助け合い、自尊心の育成、労働者が連携して力を持つことを可能にする<sup>36</sup>。人間がより幸せに豊かに生きるための要素を持っている経営体制が協同組合農園だということができる。

しかしこれについては選択肢というよりは、必要に迫られた選択という方が適切であるように思う。仕事が無く食べていけない労働者にとって仕事をする事、仕事を作ることが何よりも先決だからである。しかしその迫られた選択には可能性がある。それはこの協同組合紅茶農園が他の農園に与える影響である。これは、紅茶農園労働者にとって「能動的な自由」であると考えられる。受動的な自由の中で生きている限りは、仕事が無くなったらそれ以上動くことは、自分から何か動くということに慣れていない場合、出来ない可能性が高い。しかし、自らが動き手にする自由とは、協同組合紅茶農園を設立し自立しながら生きていくということであると考えられる。この道は決して用意に歩めるものではないが、その困難さに値するものを持っていると思う。

特にトリブラの5つの紅茶農園は成功しているのであるから、それを他の機能不全の紅茶農園が知る事ができれば、その輪が広がっていく可能性を持っている。労働者協同組合が、組合員同士での共通の所有の意識が確立されながら、働く事を実現させ参加型の民主的経営をしているという認識を持ち続けることにより、労働者が人間として幸せに生きる可能性を持っている。

おわりに

---

<sup>36</sup> 同上雑誌。

インドのダージリンティを輸入している日本は世界で三番目の輸入国である。先進国で惜しみなく消費している紅茶を支えているインドの紅茶農園労働者の存在をなくしては、食後に「紅茶でも一杯飲みましょう」という会話は生まれてこない。インド人の労働者が生産した紅茶が私たちのカップに注がれているという現実がある。国際市場で取引された紅茶が私たちのテーブルにまで運ばれているその時、ある紅茶農園労働者は失業状態にあり、食べる物がなくて苦しんでいる。この延長線上に私たちの生活は存在しているのだから彼らの「貧しさ」についても私達と無関係で存在しているわけではない。

仮に誰かが「自分は貧しくもないし、貧困とは関係ない。ましてや、発展途上国の貧困問題なんて全く関係ないわ。」と思っているとする。しかし、紅茶を通して自分と貧困問題が関連しているということに気づくことは可能である。今までは「ただの紅茶」だったものが、「ただの紅茶」ではなくなるとき、私達の問題意識が変わると思う。

私たちは社会の中で、世界の中で弧を描くように相互に関連しあいながら生きているのではないだろうか。ある一点を凝視するとそれはそれ自身で成り立っているかのように感じてしまいがちであるが、実際はそのようなものはないのではないと思う。自然界においても、人間の社会においても、必ず何かが何かによって助けられて存在している。

紅茶が私たちの問題意識を変えるとき、私たちの問題意識のみならず日本の社会にも変化が生まれているということになると思う。社会にある問題も、紅茶がただの紅茶ではなくなるとき、ただの問題ではなくなってゆくのだと思う。

私達は日々の生活の中で「自分と関係ある・関係ない。」という思考を巡らすことが多い。そして、ある問題に興味を持つ又は持たない。しかし、「関係がある、ない。」という判断を限られたイメージや情報で行い過ぎてはいないだろうか。固定観念的なイメージに囚われるとそのものの実態は見えづらい。紅茶の外見を見ているだけでは、紅茶労働者の顔も彼らが直面している状態も、自分がその紅茶と関係していることも容易には見えては来ない。「どうして?なぜ?」というような好奇心、興味関心が必要ではないだろうか。「考えてみる、思考を止めない」ことは「自分と他者をつなげる」こととなり、自分と貧困は関係しているということに気が付くことにつながるといえる。



【文献】

- 加藤祐三・川北稔 1998 年『世界の歴史 アジアと欧米世界』 中央公論社  
山口哲夫 1959『インドにおける茶産業の諸問題』 国際食糧農業協会  
綿引弘『物が語る世界の歴史』 1994 聖文社  
下川雅嗣 2005 年 特集/コミュニティ・ビジネスとまちづくりーコミュニティ分権を  
進める持続型まちづくりの課題と展望 社団法人 日本住宅協会

【HP】

Indian Tea Association

<http://www.indiatea.org/>

Tea Auction

<http://www.teauktion.com/home.asp>

TheHINDU 『Panel moots better deal for tea plantation workers』

<http://www.hinduonnet.com/>

The Tea Council

<http://www.tea.co.uk>

FERA <http://finance.indiamart.com/>

Australian Food Grocery Council's(AFGC)

<http://www.tea.org.au/>

【調査書 インターネットより】

Department-Related Parliamentary Standing Committee onCommerce, 19<sup>th</sup> of  
August 2003 『Parliament of India-sixty fourth Report of export of TEA』

<http://rajyasabha.nic.in/book2/reports/commerce/64threport.htm/>

New South Wales Department of Education and Training

『Darjeeling Hills Community』

[http://www.curriculumsupport.nsw.edu.au/HSIE/files/HSI\\_966darjeeling.doc?CFID=562044&CFTOKEN=38751109](http://www.curriculumsupport.nsw.edu.au/HSIE/files/HSI_966darjeeling.doc?CFID=562044&CFTOKEN=38751109)

Keith Stamp Tea-a Fair Cup?

[http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05\\_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?/'](http://www.eftafairtrade.org/pdf/YRB2001Ch05_EN.pdf#search='tea%20a%20fair%20cup?/)

Sureshramana Mayya 『Workers' Alternative to unemployment』 2002 年 5 月 25 日  
Economic and Political WEEKLY

<http://www.epw.org.in/showArticles.php?root=2002&leaf=05&filename=4505&filetype=html>

Make Trade Fair, OXFAM 『The Tea Market –a background study』

<http://www.maketradefair.com/assets/english/TeaMarket.pdf>

## 紅茶協会に加盟している外資系紅茶関連企業

### ブレンド&パッカーとして加盟している会社

ブレンドとパッカー
1. アーマッド・ティ
2. ベティ&テイラーズ オブ ハロゲート
3. プロディメルローズ ドリスデール有限会社
4. ブルックボンド
5. デイジェーマイルズ有限会社
6. ダンカンブラザーズ有限会社
7. 東インドサービス有限会社
8. フィンレイビバレッジ有限会社
9. フューチャージェネレーション有限会社
10. ハエルセン&リオン有限責任会社
11. インポリエントUK有限会社
12. ロイドボルトン
13. ニューイングランド紅茶有限会社
14. ノーザンティマーチャンツ
15. パシフィックトレーディング会社
16. リングトン有限会社
17. セントジェームスティ有限会社
18. ウィンドミルティ有限会社

### 輸出入業者として加盟している会社

輸出入業者
1. アーマッド・ティ
2. ベティ&テイラーズ オブ ハロゲート
3. ブロディメルローズ ドリスデール有限会社
4. ブルックボンド
5. ディジェーマイルズ有限会社
6. ダンカンブラザーズ有限会社
7. 東インドサービス有限会社
8. フィンレイビバレッジ有限会社
9. フェーチャージェネレーション有限会社
10. ハエルセン&リオン有限責任会社
11. インポリエントUK有限会社
12. ジェームスフィンレイ (海外) 有限会社
13. パシフィックトレーディング会社
14. ウィタードオブチェルシー

### ティブローカーとして加盟している会社

ティブローカー (仲介人)
1. ブロディーメルローズドリスデール有限会社
2. 東イースト紅茶サービス有限会社
3. インポリエントUK有限会社
4. ジェームスフィンレイ (海外) 有限会社
5. エルエリンクシュウールマン
6. ニューイングリッシュティ有限会社

出所：Tea auction.com <http://www.tea.co.uk/tPeople/index.php> より邦訳。

---